

広告

前を向き、共に歩む。私たちは社会福祉法人です。



おおにし とよみ
大西 豊美 氏

昭和26年、大阪府生まれ。社会福祉法人みなと寮理事長。大阪府社会福祉協議会 社会福祉施設経営者部会 部会長として、府内の社会福祉施設の経営課題に向き合い、持続可能な福祉経営と地域福祉の発展に尽力している。また、大阪府社会福祉協議会 副会長、全国厚生事業団体連絡協議会 会長、全国救護施設協議会 会長、大阪民間社会福祉事業従事者共済会 理事長を務め、広い視野で福祉の未来を見据えた取り組みを推進。令和3年には「第51回毎日社会福祉顕彰」を受賞し、その功績が高く評価された。

小さな取り組みから
垣根を越えた
大きな連携へ。

オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業として生まれた「大阪しあわせネットワーク」の歩みは、平成16年に老人施設部会で始まった「総合生活相談（生活困窮者レスキュー事業）」にさかのぼる。生活上のSOSに応えることを目的に、社会福祉法人に所属するコミュニティソーシャルワーカー(CSW)やスマイルサポーターを養成し、体制を整備。以後、各法人は社会参加支援や居場所づくり、就労支援、子育て支援、学習支援など、地域の実情に応じた多彩な活動を展開してきた。

平成27年には、こうした取り組みを基盤に、事業種別を超えた協働体制のもとで「大阪しあわせネットワーク」が発足。発足から10周年を迎えた令和7年4月1日現在、大阪府社会福祉協議会の会員法人1510法人が参画する大規模な連携事業へと発展している。

格差が広がる時代
だからこそ、
「人のつながり」を大切に。

大阪しあわせネットワークは発足以来、生活困窮に直面する方々の尊厳を守ることを使命として活動が続けてきた。経済的困難や孤立に苦しむ人が、「自らの人生を生きる」という当たり前の希望を抱き続けられるように、その声に耳を傾け、心に寄り添い、支える…。

この人と人のつながりを大切にしながら、大阪しあわせネットワークの根幹であり、活動の原動力となっている。



「今の日本は格差社会。だからこそ、誰一人取り残さない社会をつくるのが求められています。」と大西部会長。国も地域共生社会の構築を掲げているが、その核となるのは「生活困窮に直面する方々への支援」だと語る。大阪しあわせネットワークでも「貧困の連鎖を断ち切る」という強い想いを胸に、食料や物品の支援を始め、就労や地域参加への機会づくりなど、「自立」や「つながり」を回復させるためのさまざまな支援を実施している。

10年の感謝を胸に、
次の10年へ。

「幾多の困難を乗り越え、活動を継続できたのは、地域の現場で尽力してきた多くの方々の支えがあったからこそ。その厚い支援と共感こそが、大阪しあわせネットワークの成長の原動力となってきた。」と、10年の歩みを振り返る大西部会長。

「社会福祉法人は、地域に生きる人々のセーフティネットとして一層の役割を果たすことが期待されています。地域の隅々にまで手を差し伸べ、声なき声を聴き、誰一人取り残されることがない社会を築くこと。それが私たちの使命です。」

私たちはこれからも「社会福祉法人があつてよかった」と一人でも多くの方に実感していただけるよう、時代の変化を恐れず、新しい課題に果敢に挑み続けてまいります。」と今後の展望を示した。

10周年という節目は、過去を振り返ると同時に、新たな未来へと踏み出す起点でもある。大阪しあわせネットワークはこれまで培ってきた経験と信頼を礎に、これからも地域に深く根ざし、人と人が支え合い、共に生きるという原点を見失うことなく、持続可能で豊かな地域福祉の実現をめざし、前進し続ける。

大阪しあわせ
ネットワーク 10周年

～ 出かける つなぐ 創る 社協へ ～
大阪府社会福祉協議会

地域の生活を支える活動

セルフ部会

障がいのある人の「働く・くらす」を地域のあたりまえに。

誰もが自分らしく
働ける社会へ。

セルフ部会は、障がいのある人の「働くこと」と「暮らすこと」を支援する施設で構成されている。

名称のSELFは「Support of Employment, Living and Participations」の頭文字を取ったもので「就労・生活・社会参加を支える」という意味が込められている。障がいの種別を超えて、誰もが地域で自分らしく働き、暮らせる社会の実現を目指している。

平成22年には、府内授産施設における工賃の向上と府民への啓発を目的に、セルフ部会内に大阪授産事業振興センターを設立。障がいのある方が作る焼き菓子や雑貨などの授産製品を販売し、その収益を工賃として還元する取り組みを続けている。

「利用者さんの『働く喜び』がそのまま地域の笑顔につながる」。それが私たちのやりがいです。」(大阪府障害者福祉事業団 宮協理理事長)

気づき、学び、喜び。
福祉のFUNを発信。

大阪府障害者福祉事業団では今年度から「障がい者福祉をもっと、ちいさな当たり前前に

成人施設部会

地域に根ざした実践と専門性の探求で支援の幅をさらに広く。

意見交換を実施し、
協働を推進。

成人施設部会は、救護施設や障害者支援施設等の社会的保護を要する人々の生活を支援する施設で構成されており、現在、95の施設が加盟。部会では、現場が抱える課題を持ち寄り、福祉の現場同士が連携してより良い支援の形を模索し活動している。

また、施設種別ごとに連絡会を設置して活動しており、現在は救護・更生施設、知的障がい関係施設、身体障がい関係施設の3つの連絡会を設置。それぞれの分野にわかれて事例紹介や意見交換などを行い、専門性の向上やスキルアップに努めている。

さらに、年に一度の全体研修会では、その年のテーマに沿って話し合いを行い、懸案事項



四幸和会 理事長 大崎 年史 氏